

公表

従事者における自己評価結果

事業所名	児童発達支援センターあはは		公表日		令和7年 3月27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	26	0	保育内容によっては少し狭く感じることもあるが、保育室を変更しながら対応をしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	26	0	保育内容や個別支援の必要性が高い時には、調整を行い、クラスの職員数を増やすなどの工夫をしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	26	0	視覚的にわかりやすく工夫をしたり、特性に応じた設備を整えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	26	0	美化委員会・教材委員会、週の全体リーダーがチェックするなど職員全体で連携できるようにしている。おもちゃの消毒など定期的に行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	26	0	感染症対策として、静養室で過ごすことができる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	25	1	定期的に評価・反省・改善点を話し合い、改善に努めている。また各種委員会を設け、業務を遂行できるよう努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	26	0	ホームページ等で公開し、その内容を閲覧したり、職員が把握する会議を設けている。モニタリング時に意向を把握するためのシートを活用している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25	1	各種委員会を設置したことで意見を出しやすくなった。職員全体が意見を言える環境・雰囲気はまだまだ整っていないと感じる。	・会議のあり方、会議の場での雰囲気作りなど職員が意見を出しやすい環境を工夫します。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	26	0	1月に外部の方による評価をおこなった。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	26	0	定期的に様々なテーマでの研修に参加し、理解を深めている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	26	0	保護者説明会や配布するなどして周知に努めている。ホームページに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	26	0	様々な視点からアセスメントを行い、分析や評価を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	26	0	担当者会議行う中で児童発達管理責任者だけでなく、クラス担任、作業療法士、言語聴覚士なども参加し検討をしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	26	0	・児童発達支援管理責任者が中心となり、個別支援計画を周知した上で日々の保育を行っている。また必要に応じて担当者会議を開き、支援の振りかえりや家族の願い、児の姿について話し合う機会を設けている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	26	0	職員全員、アセスメントツール(遠城寺式発達検査法や延岡式得手不得手チェックなど)を学ぶ機会を設けている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	26	0	個別支援計画の項目や内容についての見直しを行い、支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	26	0	個別支援担当者会議を行い、職員の意見を十分に踏まえて立案をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	25	1	親子通園部門では、保護者の方も楽しめるような内容を工夫している。少しずつ活動の内容や保育する場所を変え、活動が固定化しないよう工夫している。	今後も繰り返して行う活動や季節に応じた行事などを工夫して行えるように計画を立てていきます。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	26	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	25	1	職員間で声を掛け合い、毎回確認しながら保育活動ができています。 毎回必ず打ち合わせをしたり、振り返りを行うことが難しいこともある。	毎日できないこともあるが、必要最低限の伝達事項はボード等を書いて周知するように努めています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	18	8	話すように努めているができていないこともある。個々に声をかけ意見を聞いたりするように心がけている。	支援終了後、すぐに話をする場合もあり、その場で対応できることは確認し、共有できるように努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	25	1	毎日記録をとり、支援したことによる変化や改善点を検討している。	記録をとることで振り返りを行い、実践につながるよう徹底してまいります。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	26	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	26	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	26	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	26	0	併行通園を利用しているお子さんの保育園との間で、定期的に担当者会議を行い、情報を共有する機会を持っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	26	0	保育所等訪問支援事業を利用し、情報共有、相互理解ができるよう丁寧な引継ぎを行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	26	0		自立支援会議を通して意見交換をする場を設けています。また研修を企画し、参加してもらおうよう案内しました。 次年度は児童発達支援管理責任者対象の勉強会などを企画したと思っています。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	26	0		公認心理士、社会福祉士や九州医療科学大学の言語聴覚士、宮崎市総合発達支援センターの作業療法士から学ぶ機会があります。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	26	0	積極的に参加している。今年度は児童発達支援管理責任者や中核機能を担当する職員などが参加した。	令和7年度はこども支援部会のリーダーとなり、企画、運営を行っています。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	26	0	年長児は、地域の幼稚園との交流会、園庭開放などに定期的に参加している。 また就学を見据えて小学校との交流もできた。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	26	0	今年度は、子育てサポートや家族支援等で保護者と子どもの支援について話す機会はさらに増えたと思う。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	24	2	就学についての勉強会や、保護者の会と協議をしながらテーマを設け、学べる機会を作っている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	26	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	26	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	26	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	26	0	日々、保護者の方に声を掛け、日常の話から子どものことなど声を掛けるようにし、場合によっては面談の機会を設定している。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	26	0	保護者の会の勉強会やカレンダー販売など協同して活動を支えている。またきょうだいの会や法人で企画したきょうだいシンポジウムを開催した。親子通園の際、きょうだいの赤ちゃんのお預かりも行っている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	26	0	相談内容によって、どの職員が対応するのがよいか迅速に職員会で報告や相談ができている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	26	0	園だよりやホームページ、メール等を活用し、情報を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	26	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	26	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	23	3	法人は自治会には加入している。地域住民を招くなどの活動はできていない。	今後、地域に向けて開かれた場所となるよう計画をしていけるよう努めていきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	26	0	各マニュアルを策定し、毎月様々な場面を想定し避難訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	25	1	大災害が起きた時を想定し、近隣の公園や学校にも地域の中で避難するという訓練も行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	25	1	児童発達支援管理責任者や看護師の定期的なアセスメントの中で把握している。	入園時、面談時や定期的に確認しています。今後も職員全体で把握できるよう努めます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	26	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	25	1	策定されているかわからない。	策定していますが、引き続き職員全体に周知徹底していきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	26	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	26	0	会議、朝礼、ホワイトボード等を利用し、職員への周知、検討を徹底して行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	26	0	県、法人内の虐待防止の研修に参加している。事業所内の虐待防止委員会が虐待に関する自己評価のアンケートを取り、虐待の芽がないかなど、事業所全体また各自意識するようにしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	26	0	身体拘束について説明を行っている。了承を得たうえで個別支援計画に記載している。		